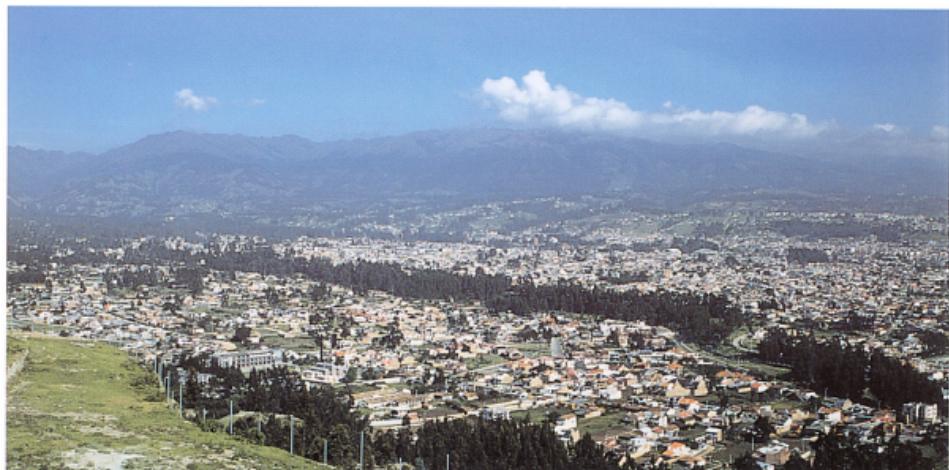


エクアドル南部のトラバーチン

金スカルン鉱床で有名なエクアドル南部クエンカ周辺には、トラバーチンを沈殿している温泉が散在する。これらのトラバーチンは古くは建材として用いられ、現在ではセメント材料として利用されている。ここではクエンカ近郊のエル・バニヨス温泉のトラバーチンと、トラバーチンが利用されている建造物を紹介する。<地質調査所 鉱物資源部 渡辺 翠>

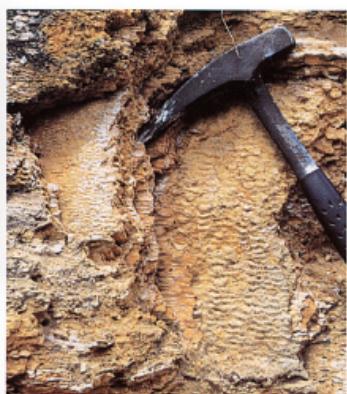


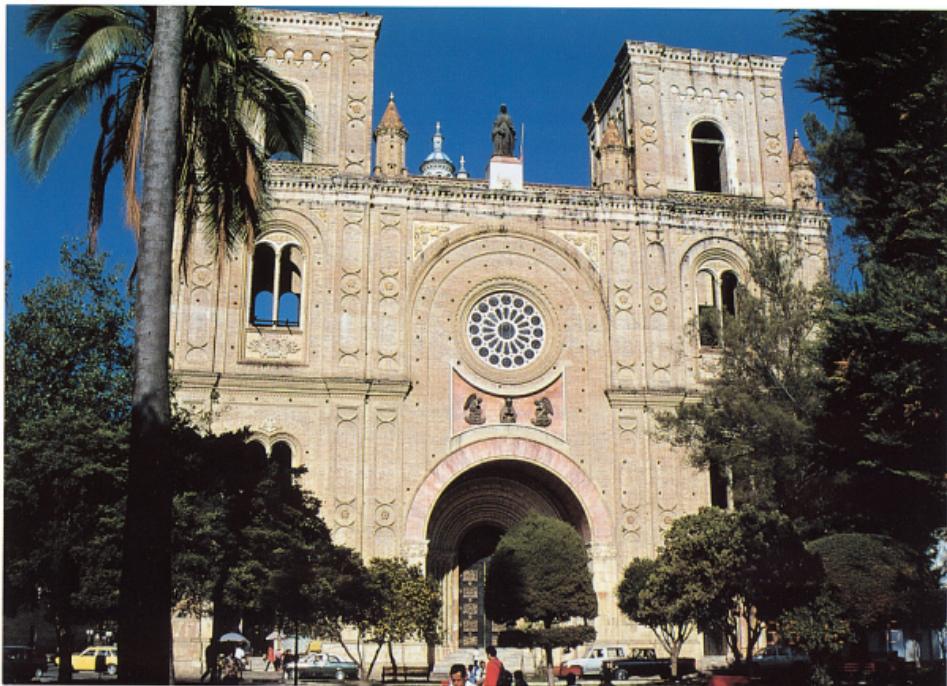
1. クエンカ市街の風景。南北方向の構造盆地中に拡がる標高2,550m、人口約20万人のエクアドル第3の都市。南緯約3°に位置するが、年平均気温14°Cと気候は温和である。都市後方の山地は中新世の安山岩からなる。エルバニヨスは山地と都市の間の丘陵地に位置する。▲



3. 温泉水から沈殿したトラバーチン。表面にはリップルマークが見られる。地下水水面より上部に形成されたものは空隙が多く、下部に形成されたものは緻密な大理石となる。▶

2. エル・バニヨスでは南北方向の断層(写真中央の割れ目)に沿って数カ所の温泉湧き出しがある。トラバーチンは沸騰している温泉水から沈殿し、断層に沿ってレリーフを形成する。家の手前の小屋からも温泉が湧き出している。◀





4. クエンカ市街の中心に位置する旧大聖堂(Iglesia del Sagrario)。1557年にこの地に入植してきたスペイン人により建設された。外壁はすべてトラバーチンから採取した大理石からなる。▲



5. トラバーチンを用いて作られた家の壁。▲

6. 最高裁判所。旧大聖堂と比較すると空隙の目立つやや質の悪いトラバーチンが用いられている。▶

